

平成 25 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000120		
法人名	(有)介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51番地1		
自己評価作成日	平成 25年 11月 10日	評価結果市町村受理日	平成 26年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000120-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000120-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 11月 21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもある様に、地域や家庭との結びつきを大切にするという事に重点を置きいつでも家族、地域の皆様が来て頂ける様に、家庭的な雰囲気作り心掛けております。又、地域包括支援センターや地域の方々と連携をとり認知症の方が住みやすい地域作りを目指していきたいと思っています。利用者様が笑顔で安心、安全、健康にその人らしい生活が送れる様支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山田町山田で海岸から離れた内陸部の関口地区に所在している。建物は2階建てエレベーターが設置されている。開所前に、管理者と職員で検討を重ね、①「その人らしい生活」②「家庭的な雰囲気」③「和・話・輪」を大切に、とする理念を作成し、地域住民の理解を得て、その人らしい暮らしのできるホームにしたいと、年2回発行する広報を役場に相談し自治会の協力を得て各戸に回覧し、草刈りや集会場の清掃活動に積極的に参加し事業所として交流を図り、2ヶ月に1回開催の推進会議では、利用者の暮らしとホームの役割について説明し、協力していただけるよう努めている。行政との連絡を密にして情報を共有、協働の姿勢で良好な関係を構築すべく努力しており、今後の発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いをグループホームの理念を作り、毎朝ミーティング時唱和しています。	理念は、開所前の研修で話し合い、①「その人らしい生活」②「家庭的な雰囲気」③「和・話・輪」を目標とする理念を作成、玄関などに掲示して、毎日意識しながら目標に向かって支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方々に会いした時は、笑顔で挨拶を交わし野菜や様々な差し入れを頂いたり買い物や理容等も近所のお店を利用する事で交流を持っています。近所の子供さん達も気軽に遊びに来て利用者さんの和やかな笑顔作りをして下さいます。	地区の行事(草刈り、集会所の掃除)に参加し、歌や踊りのボランティアの受け入れ、野菜を貰うなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。役場と自治会の協力を得て、事業所の広報を回覧するなどPRIに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練・消火器の使い方、ボランティアの踊りへの見学の誘い広報誌の配布もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内の利用者や、サービスの状況報告、地域の情報等を話し合った内容は、スタッフ全員に周知しサービスの向上に活かしています。推進会議に出席されなかった委員さんにも、議事録を配布し周知しています。	2ヶ月に1回開催、委員は地域包括支援センター、地区自治会会長、民生委員、行政連絡員、町生活改善推進委員、家族代表、入居者代表、管理者で構成し、開設間もないことから、利用者の暮らしと今後の予定、ホームの役割と利用者の理解に努めている。	委員には、ホームを理解してもらうため、日常の暮らしや支援の状況を説明し会議を開催しており、情報共有と協力体制が築かれてきており、今後、会議を活かした取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や協力事項等は、日頃から連絡を密にとる様に心がけています。地域包括支援センター主催のケア会議(情報交換)等への参加。	行政の担当者とは運営推進会議や行政主催の会議、広報の配布等を通じて積極的に情報交換しており、また、利用者の紹介や入所後の対応等連絡を密にして情報を共有、協働の姿勢で良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り、カンファレンス等でスタッフ各々が利用者のケアを振り返り話し合っています。利用者の安全上身体拘束をしなければならぬ時は、家族から了承を得ています。	職員は、研修会や伝達講習により理解を深めるとともに言葉の拘束についても接遇研修を通じて学び、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での勉強会や研修会に参加し、スタッフ全員で共有し身体的観察を密にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者はおりませんが、今後包括支援に依頼しスタッフ全員で研修しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって、家族・利用者に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、苦情や不満要望は、その都度スタッフ間で連絡を取り、早急に対応出来るようにしています。	日頃の会話、散歩、入浴介助などで意識して聞くように心掛け、家族からは面接、誕生会や敬老会に案内をし聞く機会をつくり把握している。利用者本人からお店がない、山奥だと不満も出されたが、寄り添いながらサービスの質の確保に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、定期的に業務・カンファレンスを行いスタッフの意見や提案等が話せる様な雰囲気作りをしています。	業務会議、連絡ノート、申し送り時が職員の意見や提案を聞く機会となっており、杖置き場の作成やテーブルの配置換えなど気づきやアイデアについて話し合い運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、各々に目標を掲げ達成できる様に心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得へ向けてのセミナーへの参加等にバックアップしています。 お互いに認め合いスタッフ間にコミュニケーションが、円滑に行くように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に加入し、勉強や研修に参加し、他事業所との交流を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一人一人が本人に寄り添い、思いを傾聴しスタッフ間で情報を共有しながら、安心する環境作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何でも話しやすい様な環境を作る為、明るく和やかな対応を心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャー、医師と家族と連携を取りながら、毎日の生活の中でスタッフが必要と考える支援を提案し実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを心掛け本人の意見、意志を尊重しその人らしく生活が出来る様な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族と本人が楽しい時間を過ごせるよう配慮し、近況報告をしたり、今後の予定・行事への参加の呼びかけ、あお空通信の発行の作成をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの電話や面会等は、本人や家族から確認を取りつつ関わられる様に支援をしています。 馴染みの場所は、ドライブを兼ねておテレ出来る様。計画実践しています。	来訪するヤクルト販売員、移動販売の人、定期的に来る美容院の人など新しい馴染みとなったり、以前通っていたラーメン屋、住み慣れた町は震災で被害を被ったが脳裏に浮かぶ風景を眺めにドライブしたりして、思い出の場所や地域との関わりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に、利用者同士が楽しんで関われるレクリエーションやドライブ等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	偶然会った際は、挨拶を交わし、近況を伺ってと声をかけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、行動の中で本人の思いをくみ個別の対応を心掛けています。 申し送りカンファレンスで変化の把握に努め利用者の自宅に行ったり、その辺をドライブしたり本人の思いが叶える様に支援しています。	日常の生活の行動や表情、話の中から汲み取ったりレクの時間やドライブ、食事の時の会話で聞き出し、思いや意向に添える支援に努めている。必要な時は家族とも相談して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中で、これまでの暮らしや環境を把握しホームでの生活に、取り入れる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の経過観察記録を用意し、スタッフ同士が情報を共有し、現状を共有し現状の把握に務め必要に応じてカンファレンスで取り上げ、対応出来る様に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日々の会話や行動観察、家族及び関係者からの要望意見等やカンファレンス等でのスタッフからのアイデアも交換し、本人が笑顔で暮らせる様な、介護計画を作成する様心掛けています。	生活記録などの情報は入居時に担当ケアマネ、家族から聞いており、その後の経過は、日頃の支援の過程で把握し、課題などは職員で話し合いながら、プランを作成・評価し、本人や家族の状態、意向やアイデアを反映して見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の各種記録、気づきノートの活用、申し送り、カンファレンス等で情報を共有し支援に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、その都度話し合い柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでのイベント(誕生会・敬老会)へのボランティアの訪問、又地域の催しへの招待等に御連れする事で、楽しく豊かな暮らしが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時、出来る限り希望にそった病院の受診で対応しております。 利用者の主治医とも良い関係を築いております。	希望するかかりつけ医で、基本的には家族同行の受診としているが、家族が遠方などで不可能な時は職員が同行し受診している。受診結果は報告し情報を共有しており、町外と緊急の場合は家族と職員が同行して受診することとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や気づき等、常時報告し合い指示を受け、適切な対応を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、日用品の補充や見舞等で病院に足を運んだ際に、病院関係者と情報交換し利用者が安心して入院できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・家族と連携を取りながら、ホームで出来る事と出来ない事を話し、出来るだけ家族の思いに近づける様に支援しています。	契約の際に、重度化や終末期に向けた取り組みは、かかりつけ医と相談し家族と連携しながら対応することを話し、たんの吸引など医療行為が必要になれば施設替え(特養や老健)を含めて相談しながら取り組むことを説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、消防署の職員や全ての職員が緊急時に備えられる様訓練して指導されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練や、マニュアルにて職員全員が対応出来る様努めています。今後、近隣の方々にも参加して頂き、一緒に訓練を行いホーム内を把握して頂く事で地域との協力体制を築いていきます。	6月は日中想定で(避難・初期消火・通報)訓練を実施し、12月は夜間想定で行なう予定である。協力員を2名依頼しているが、訓練が日中のため勤務の関係から参加するに至っていない。	スプリンクラーなど防災設備を完備し、講評の結果は次に活かしたい、加えて消火器訓練には住民に参加を呼びかけ実施したいとしており、併せて地域の協力体制も築かれるよう検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃より、利用者を尊敬・尊厳する事をスタッフに声掛けし、他家族・外来者に対して本人のプライバシーに関する情報は、漏らさない様徹底しています。本人の意欲を高める様な言葉がけを心掛けています。	トイレや入浴介助で「申し訳ない」という言葉が発せられるが、心配しないでとスキンシップし、プライバシーを傷つけないよう個性を尊重し、日頃、得意としている話題や場合によっては方言で話しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々、利用者の状態に合わせた説明の仕方をして、ちょっとしたことでも本人が選択出来る場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の状態や思いを出来る限り、個別性のある支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは利用者の好みに任せているが、職員と一緒に考えて選んでいます。整髪は近所の美容院が来所されて本人の意向を聞いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、利用者の好みを取り入れながら、利用者の状態に合わせて、準備や片付けをしています。昔からの習わしを大切に、行事(お祭り・正月・誕生会)等の行事食も取り入れ、季節感を味わっています。	本社の管理栄養士が作成した献立を活用、郷土食や風習も大切にしつつ地の食材を取り入れるなど、食事に関心が持てるよう工夫している。食材の買い物に出掛けたり下拵えや茶碗拭きなど役割を持って参加できるよう工夫し、口腔体操のあと職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事量や水分量を記録し一人一人に合った、摂取量になる様に支援しています。管理栄養士が作成したメニューを基に、メニュー作成を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後その都度、一人一人の力に応じて声掛けや介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表のチェック、各々の排泄パターン習慣を把握し、トイレ誘導、声掛けを行っています。 出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援しています。	排泄チェック表の活用と観察により声がけ、誘導をしている。排便で下剤を使用していた方を医師と相談し水分補給のチェック、散歩、運動などを取り入れ改善された利用者もあり、工夫しながら排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を、メニューに取り入れたり水分の調整、体操、散歩等を試みて予防しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制せず、タイミングに合わせ入浴の声掛けを行っています。 清拭・足浴で対応しています。	2日に1回の予定で、午後4時ごろから夕食前まで、入浴時にはバイタルチェックを行い安全に配慮し、入浴剤を使用し温泉の話をしたり、一緒に歌ったり、好きな人と入浴したり、拒否された時は、職員を変えたり、時間を置いたりして工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況や、体調環境(温度・湿度・天気)を考慮し、声掛けにて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明を参考に理解に努めています。服薬の際は、飲み込むまで見守り、薬が変更となったときは、連絡ノートに薬効や注意等を書いたり、スタッフ間で報告をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせて、各種お手伝いをして頂いたり、買い物・レクリエーション・誕生会・町内催し会の参加等、メリハリのある日々を過ごせる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数が確保できない時は、希望に添えない場合もあるが、自宅訪問や買い物等は本人の希望に添えるようにしています。	日常的な外出は建物周辺の散歩や買い物で、花見や紅葉、お祭りなど季節や地域の行事等時々の状況に応じて個々が楽しめる支援に努めている。外出の際はドライブを兼ね自宅周辺や海岸の風景を眺めたり、スーパーに寄ったりして気分転換が図られるよう外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設で管理していますが本人希望で少ない金額は、所持して頂いています。 買い物の希望時は、職員も同行し支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、手作りの電話帳を作り家族や友達等と交流を図っています。 書物の得意とする方には、宛名書き等もして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者間の人間関係を、考慮しながらテーブルの配置をしています。又、包丁の音、食器を洗う音、調理時の香り等による五感の刺激も大切にしています。又、季節ごとの手作りの装飾で、季節を感じていただけるようにしています。	2階建てでエレベーターを設置し、階段には手すり、踊場を設け安全に努めている。明かり窓を取り付け室内の採光も良く、食堂兼ホールの共用空間にはテーブル、ソファ、テレビを配置し自由に移動や懇談できるように配置されている。壁には高校生が季節ごとに作成してくれる手作りの装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置することで、仲の良い利用者同志でくつろげるスペースを作り、相談事等もある場合は、事務所も活用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を聞き本人の使用している物、馴染みの物を置いて本人が安らぐ様に支援しています。	ベット、クローゼット、タンス、エアコンが備えられ、利用者は衣装ケースやシルバーカー等使い慣れた馴染みの物を持ち込み、敬老会での感謝状を飾るなど、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に留意した手作りの取り付けや、分かりやすく張り紙や声掛けによる自立支援を行っています。		